

■ ネットブックに代わる コンピュータ“iPad”

—— iPadを実際に使ってみてどうか。

西田 僕の職業が物書きではなくて、仮に一般的なサラリーマンであるとすれば、自宅に帰ってPCを開く代わりにiPadで十分事足りると思う。普通の人がPCに求めるほとんどの事はiPadでできるからだ。iPhoneでもできるが、iPhoneはサイズが小さいので使いづらい。それに比べて9.7インチ画面のiPadは使いやすい。

—— 西田流の使い方は。

西田 僕はよく、仕事をPCでしている時に、隣のiPadにtwitterを表示したままにしている。仕事をしながらも視野の端でiPadの画面をとらえているので、新しい情報が来ればわかる。返事が必要なものはPC上でtwitterのソフトを開いて返事をする。この方法は一つの画面に同時に2画面を出すより、集中したい画面に集中することができる。これが仕事でなくて、趣味を楽しんでいるときでも、テレビを見ているときでもいいわけで、iPadは情報ディスプレイとして使うのに適している。

■ “必要ないものは切る” ジョブズ流美学

—— iPadの価格は16GBで499ドル(3G対応は629ドル)と、ネットブック*とほぼ変わらないか、iPadの方が100ドルほど高い。iPadの価格とパフォーマンスのバランスについてどう思うか。

西田 機械の値段としてみれば高いが、普通の人々が得られる価値としてみると決して高くない。内容は、ネットブックには百数十GBのハードディスクと2GBのメモリーが搭載されている。一方のiPadはハードディスクに対応するフラッシュメモリーが16GB/32GB/64GBしかなく、メモリーにいたっては256MBである。iPadのバッテリー容量は普通のネットブックの倍近くあって、バッテリーの容量でiPadの本体サイズが決まったと言える。簡単に言うと、iPadはiPhoneの基板に、iPhoneの5.5倍のバッテリーと9.7インチのワイドディスプレイを付けたもの。iPadの中で高価なのはディスプレイで、普通のネットブックの3倍ぐらいのコストがかかっている。つまり、機械の値段としてみれば明らかに高い。が、ユーザーが得る価値、あの見た目や楽しそうとか、使いやすいという感覚からみれば、僕はあの値段でいいと思う。日本で販売する場合、16GBで5万円以下になると思うが、この価格はみんなが納得できる価格だろう。逆にメモリー容量はiPad内に入れるものがそんなにないので、64GBを買う人はあまりいないだろうし、音楽をそこそこ聞く人でも32GBあれば十分。音楽を聞かない人は16GBでもいいと思う。

—— アップル社のCEO、スティーブ・ジョブズ氏の考えは脈々と続いているわけだ。

西田 その通り。ジョブズ氏の考えはiMacが発売された1997年当時から変わっていない。彼はハードウェアの技術革新が商品を作るものではないと考えている。彼が考えているのは、「ほかと違うデザイン」「ほかと違う手触り」「必要ないものは削る」、この3点だけだ。ところが、この3点がユーザーにとってはものすごく大事な点なのである。

—— 必要でないものを判断するのはなかなか難しいと思うが。

西田 実は必要なものも切っている。でも、それを必要ないと見せることを、彼は一つの美学としている。必要ないことをユーザーに理

『iPad vs.キンドル』の著者・西田宗千佳氏に聞く

Vol.02

iPadのここに注目！ ジョブズ流炸裂！



西田宗千佳
Nishida Munechika
フリージャーナリスト

AmazonキンドルをはじめとするeBookリーダーやアップルのiPadの発売でeBookビジネスに注目が集まっている。そんな中、書籍『iPad vs.キンドル』で初めてeBookのビジネスモデルを書いた著者の西田宗千佳氏に、今回はキンドルのeBookビジネスの仕組みのおもしろさについて聞いた。今回はキンドルのライバルとみなされているiPadの登場によってeBookリーダー市場にどんな影響があるのか、西田論を聞いた。(聞き手:吉井 勇・本誌編集長、構成:古山智恵・本誌編集部)



詰めで説明することで、本当は必要なものを
必要ないものに見せてしまう。これがジョブズ
氏一流のマジックである。

iPadビジネスを プロデュースする

—— eBookリーダーは電子ペーパーを媒体
に使っているものが多い。液晶ディスプレイ
を搭載したiPadによってeBook市場はどう
変わっていくと見ているのか。

西田 eBook市場の最大の欠点は、本しか
読めない端末を売らなければならなかったこ
とであり、支払った金額分の元が取れる人し
かビジネスの対象にならなかったことである。
元が取れる人というのは、本を読むことが仕
事になっている人か、本が死ぬほど好きな人
だ。ところが世の中の人はマンガと雑誌は日
常的に読むが、いわゆるまともな本は月に1冊
も読まないという人が大半である。つまり、市
場の大半を捨てにかかっているのがeBookリ
ーダーの市場なのである。

—— では、市場を確立するためにどうした
らいいのか。

西田 eBookリーダーがいろいろな機能のひ
とつであることだ。実際、eBookリーダーと比
べてiPadの価格は倍だが、PCの代わりにな
るから買われている。

—— iPadだからできる事とは何か。

西田 最近、海外で出版社や新聞社は、ニ
ュースのアプリケーションを積極的に作ってい
る。例えば、BBCならBBCのニュースが読め
て、記事の横に取材した映像が出てくる。こ
れはPCのWebでやっていたことだが、広告
費をきちんと取って、Webのときよりターゲ
ットを絞ってやっている。

マンガの世界でも同様のことが起きている。
アメリカの二大アメコミ出版社のひとつである
マーベル・コミックス社は現在売られている自
社作品の多くをデジタル化してiPad上で買え
るようにしている。iPadのアプリケーションは無
料で、ライブラリーの500以上のコミックを読む

ことができる。さらに購入前に最初の3頁を無
料で読ませたり、シリーズの1号目を無料で配
ったりしている。コミックは9.7インチのディス
プレイできれいに見えて、指でページめくりが
でき、コマをタップするとコマが拡大されて指
でコマ送りができる。

これらのアプリでは、ネットワークを介して最
新のデータを取ったり、twitterに情報を配信
したり、続きを買わせたり、いろいろなことが
縦横無尽にできる。今の電子ペーパーでは
表現力の問題から文字原稿が中心だし、紙
媒体で行うのは難しい。だが、性能が比較
的高いiPadなら簡単にできる。これがiPadの
ひとつの特徴である。

—— iPadをビジネスのフィールドとして考
えた場合、プロデュースの問題で気づいて
いる点は。

西田 プロデュースする上において必要な
ことは、「次を衝動的に買わせる」「商品を買
わせる導線をつくる」「記事(情報)について
ネットワークを活用してつぶやかせる」ことだ。
メールでもtwitterでもブログでも何でも
いいが、ネットワークの世界に対して、そこ
で語られていることの起点が示せることが
重要である。さっき話した電子版BBCは画
面の右側に「メールで送る」「ブログに書
く」「twitterで送る」というボタンが用意
されている。これがすごく大切。紙の時代は
口コミしかなかったが、ネットワーク時代は
起点を示した上で、最終的にBBCに消費者
を直接引っ張り込み、価値を取ることができる。
はっきり見えてきたことは、ネットワーク上
でつぶやかれた事を、ひとつのアンカーポ
イントとして実際の紙面やメディアに反映で
きないと、ネットワーク上では存在感をア
ピールできず、デジタルでの出版はうまくい
かないということだ。そういう意味で日本は
まだきちんとプロデュースできていないよ
うに思う。

ただ、凝ったメディアを作るには時間とお
金がかかる。しかし、多くの電子版は動画
やユーザーインターフェースに凝りすぎて
いて、紙媒体に比べて読みづらい。だから、
読むのがだんだん面倒臭くなり、読まれ
なくなっていく。

重要なのは、いかにコストをかけないで、
ユーザーに対して短時間に大量の情報を
読ませる仕組みをつくるかだ。デジタルだ
からといって、ネットワークで動画や
twitterを入れて凝ることは
わかりがプラスではないのである。

10年後も読める データの作り込みが大事

—— iPadフィールドは次世代を感じさせる
けれど、制作コストやプロデュース能力、
ユーザーがそれを使いこなせるかなど
の課題を考えると、まだわからないわけ
だ。

西田 問題はまだある。データをアプリ
ケーションという形にすると、ハードが
変わると読めない。これは1990年代に
マルチメディアタイトルで散々やって
きたことで、10年後読みたい見
たいと思ったときに、そのアプリ
ケーションソフトが動くOSがない
可能性も多い。アプリケーション
だけに作り込むのはいいが、
iPadがなくなり、Androidを使
ったタブレットが主流になっ
たらどうするのか。アプリ
ケーションと切り離して、
データだけは絶対見ることが
できるフォーマットを作ら
ないといけない。

—— いつまでも読めるというのは重要だ。

西田 本の価値は継続的にいつまでも読
めることである。現状では、MP3や
テキストの文字、PDFは大丈
夫だろうし、EPUBも問題な
いだろう。でも、アプリはわ
からない。新聞社はデータ
ベースを自社で別持っている
ので読めなくなることはない
だろうが、出版社がアプリ
ケーションにだけ作って紙
版はないとなった瞬間に、
元データは消失してしまう。
アプリケーションの形をと
らずに普遍的なデータ・
フォーマットで作れるよ
うになれば、最終的に産
業として回していけると思
う。

—— アーカイブとして何を
選択していくのか議論した
ほうが良いようだ。

*インターネット上の基本的なサービスを利用することを主な
用途とした小型でシンプル、低価格なノートパソコンの総
称。